

ハイドロカルチャー事始め

TC680523 樋口壮太郎

4月下旬、突然、水耕栽培（ハイドロカルチャー）に興味を持ち、3月12日に開業した新博多駅内の東急ハンズに行ってみる。しかし、期待に反して興味あるものがなかったため、仕方なくネットで調べてみることにした。その結果、以外に沢山の商品が発売されており、その中で赤いトマトをイメージした商品名「果菜」を購入した。ハイドロカルチャーは土を使わず、水と液肥のみで植物を育てる農業で、その昔、つくば万博か何かでトマトの栽培が行われ、話題になったことがある。また最近ではスーパーにもハイドロカルチャーで収穫されたトマトや小松菜が売られるようになった。初心者なので入門書を購入して俄勉強を行い、手始めにフルーツトマトから始めることにした。購入したキットにはミニトマトの種も同封されていたが、せっちな性格の僕はホームセンターに行き、無謀にもフルーツトマトの苗を購入、早速セットした。キットはトマトの形をしたプラスチック製容器、発泡スチロール製の水槽、循環用ポンプおよび液肥2種類（A液、B液）で構成されている。ホームセンターで購入したトマトの苗の根を傷めないように土をとり、一晩、水に漬け、翌日ハ

イドロカルチャーにセット、あとは液肥を入れ、循環ポンプのスイッチを入れるだけ、なるべく陽のあたるリビング前のポーチに置いた。成長は早く、1週間で約2倍の大きさに成長。これを見て、期待が膨らみ、キットをもう1台追加、こちらにはゴーヤを植えることにし、ホームセンターに苗を買いに行く。今年は東北大震災による福島原発事故の影響もあり、節電が全国に呼びかけられている。そのこともあり、ホームセンターにはグリーンカーテン関連の商品が沢山。ゴーヤの苗を買いに行ったのだが、西日のキツイ和室用にパイプとネットで構成されたグリーンカーテンセットを購入、朝顔の苗4個も同時に購入した。



ゴーヤの結実

さて2個のハイドロカルチャーは順調に成長、当初はそれぞれ1週間に

1回、3Lの液肥の補給でよかったが苗が成長し、枝葉が伸びるにつれ消費量が増え、6月に入ると2倍の消費量に増加した。特にトマトの成長は早く、幹の径3cm、高さ1.5mになり、黄色い花も付き始めた。しかし6月下旬になっても結実しないので、気の短い僕はもう駄目だと思い、早々に撤収、今度はミニトマトの苗を植え付けた。後で聞くと切るのが早すぎたようで短気は損気だったようだ。一方、ゴーヤは梅雨に入るとものすごい勢いで成長し、黄色い花を沢山咲かせると共に、結実もしはじめ、葉の重さでキットが転倒しそうになるため、毎週、かなりの量の剪定を行う羽目になった。



収穫前のゴーヤ

7月初めには直径10cm、長さ20cmのゴーヤを初収穫、ゴーヤチャンプルでおいしくいただいた。その後も

ゴーヤは結実し続け、8月末までに15個が収穫できた。とにかく樹勢が凄く、梅雨明け後は一日、6Lの液肥を消費するため、家を留守にできないほどだった。ポンプで揚水し循環する部分には根がびっしりと詰まり、水の循環を阻害する



ほどであった。花は観賞用としても楽しめる

ミニトマトは

8月初めに初の収穫を行うことができたが、思ったほど沢山は収穫できず、8月末までで20個程度にとどまった。しかし味は意外と甘く、皮も柔らかく、お店で購入するミニトマトと大差ない程であった。我が家には温室があるので冬も継続するかどうか迷っているところだが、来年はゴーヤはキットを上回る部分にはネットを張ってより高く這わせてみようと思う。またトマトは期待通りの成果が得られなかったので、キュウリかパプリカにしようと思っている。

フルーツトマト



ゴーヤ

